

# 平成15年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2004.3

小矢部市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、2003(H15)年度小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。
- 2 調査は、小矢部市教育委員会が実施し、担当は次のとおりである。  
調査事務 高木場万里（文化課主任）・中井真夕（同主事）  
現地調査 高木場万里
- 3 調査の参加者は次のとおりである。  
現地測量・遺物実測等 上田寿美子・田畑郁子・石黒淑元  
整理作業等 赤野和恵・西田芳江
- 4 現地調査の作業員は、(社)小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。
- 5 遺物写真の撮影は、アーガス・フォト・スタジオに委託した。
- 6 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。
- 7 本書の編集・執筆は高木場が担当した。

## 目 次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
埴生上野遺跡	4
松永遺跡(1)	6
上品野遺跡	8
田川遺跡	10
埴生条里遺跡	13
棚田遺跡	14
安養寺遺跡	15
松永遺跡(2)	16

## 事業の概要

2003 (H15) 年度、小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査は10件である。内訳は、国道8号小矢部バイパスの建設に伴う本調査1件、各種開発に伴う試掘調査9件である。このほかに慎重工事としたもの1件、農業振興地域除外申請、農地転用許可申請、建築確認申請、開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発の問い合わせ等に伴い、現地確認をしたものがかなりの数にのぼる。とくに、近年民間・個人による小規模開発に伴う問い合わせが増加している。

9件の調査を開発行為の原因別にみると個人住宅等の建設に伴うもの3件、農業施設関連1件、駐車場造成1件、資材倉庫等の建設1件、河川改修・県道改良に伴うもの3件である。また、原因となった事業者別に見た場合、個人5件、組合等1件、県（開発部局）3件である。

これらのうち国庫補助金を受けて、市内遺跡発掘調査等事業の対象とし取り扱ったのは試掘調査の9件と、慎重工事1件、現地確認1件である。試掘調査の概要については改めて後述する。

慎重工事としたのは、蟹谷条里遺跡内における一般国道359号歩道新設工事である。今回の施工地域はすでに宅地となっている部分が多く、また、周辺の調査の結果から、圃場整備により削平されていることがうかがえたため、遺跡への影響は少ないと考え慎重工事とした。

現地確認では、平成12年度から富山県教育委員会で行なわれていた今石動城跡の現地調査が今年度で終了し、調査の結果、今石動城の範囲が広がる可能性が大きくなった。特に北東にのびる尾根はすでに土取り工事が間近にせまっていることもあり、現地確認の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲を拡大し、遺跡の保護措置をはかることとした。

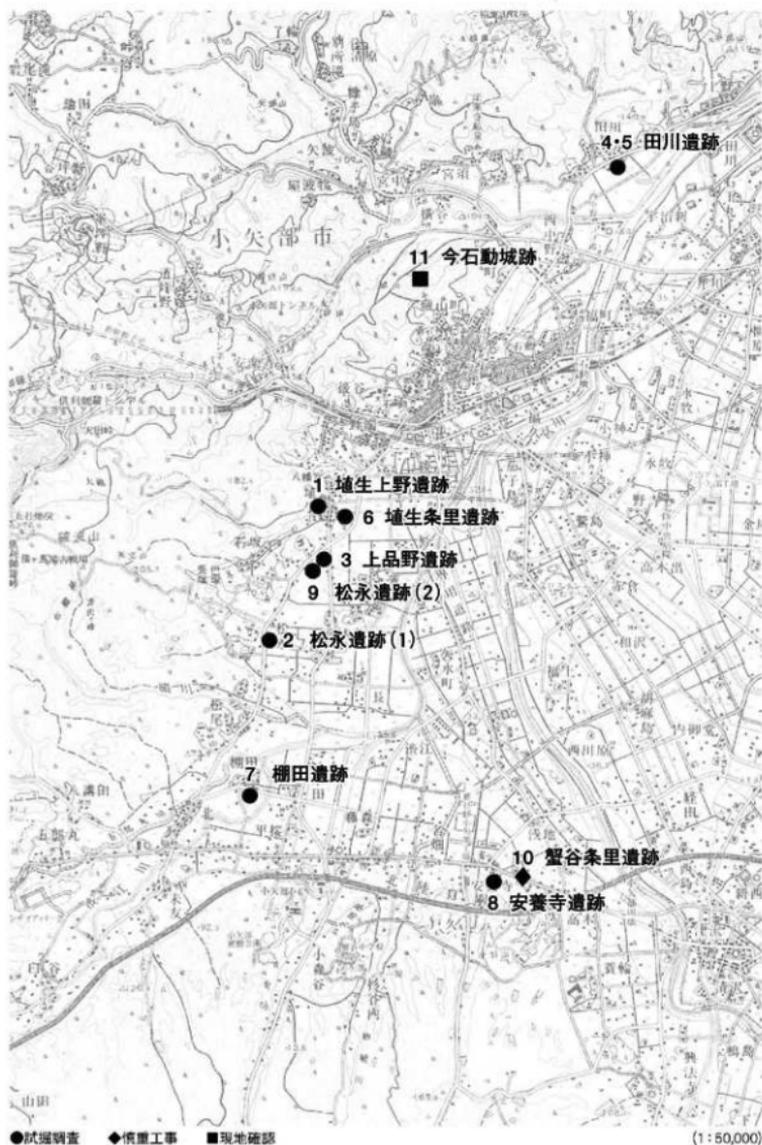


今石動城跡(右側尾根)と土取場

## 市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期 間	調査結果	調査原因
1	埴生上野 遺 跡	埴生上野 4243-18 ほか	379㎡ (3.5㎡)	試掘調査	2003.6.16 ～6.18	遺構確認されず。 縄文土器、石錐、 土師器、須恵器、 土師質土器出土。	個人住宅等建設
2	松永遺跡 (1)	松永 2038-2	385㎡ (36㎡)	試掘調査	2003.9.10 ～9.12	遺構確認されず。 土師器、須恵器、 土師質土器出土。	農業施設等建設
3	上品野 遺 跡	瀬沼 568-1	1,105㎡ (88㎡)	試掘調査	2003.9.11 ～9.26	遺構確認されず。 縄文土器、土師器、 須恵器、珠洲、 古銭出土。	駐車場造成
4	旧川遺跡 (Ⅰ地区)	出川 7132-3	165㎡ (30㎡)	試掘調査	2003.9.29 ～10.7	遺構確認されず。 土師器、珠洲出土。	河川改修に伴う 住宅移転
5	旧川遺跡 (Ⅱ地区)	出川 7089	356㎡ (42㎡)	試掘調査	2003.10.3 ～10.8	遺構確認されず。 土師器出土。	河川改修に伴う 住宅移転
6	埴生糸里 遺 跡	埴生 280-3 ほか	202㎡ (11.8㎡)	試掘調査	2003.10.8 ～10.10	遺構確認されず。 縄文土器、土師器、 須恵器出土。	資材倉庫等建設
7	棚田遺跡	棚田 2247	300㎡ (16.8㎡)	試掘調査	2003.10.9 ～10.16	遺構確認されず。 土師器、須恵器、 珠洲出土。	個人住宅等建設
8	安養寺 遺 跡	安養寺 1795	691㎡ (57.6㎡)	試掘調査	2003.11.5 ～11.14	穴3ヶ確認。 遺物出土せず。	道路改良に伴う 神社移転
9	松永遺跡 (2)	石坂 113-2	299㎡ (18㎡)	試掘調査	2003.12.5 ～12.11	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅等建設
10	蟹谷糸里 遺 跡	浅地1001 ほか	3,310㎡	慎重工事	2003.12.26 ～2004.3.31		県道改良
11	今石動城跡	上野本 ほか	167,000㎡	現地確認	2003.11.18 ～2004.3.31		土取等

## 市内遺跡発掘調査等事業位置図



## 埴生上野遺跡

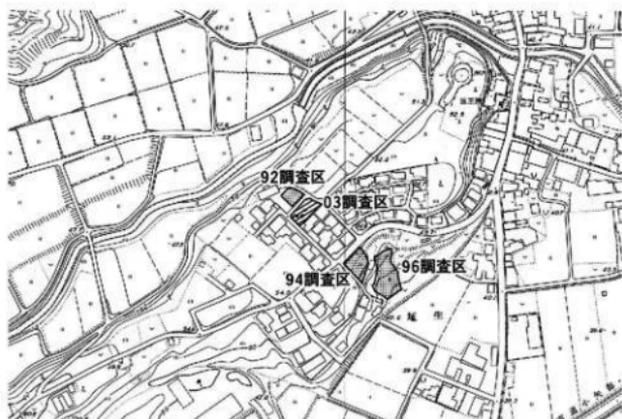


図1 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

埴生上野遺跡は、小矢部市の西部を限る丘陵からのびた標高50mの尾根上から南側斜面にかけて広がる。1992 (H4) 年度をはじめとするこれまでの周辺の調査では多量の縄文土器が出土している。しかし尾根上部は早くから開発がすすみ、現在は宅地や水田が広がっている。

今回の調査は、個人住宅の建設に先立つもので、遺跡範囲の北西に位置し、尾根上に立地する。現状は畑地として利用されているが、かつては水田であったところを盛土造成したものである。

現地調査期間は、2003 (H15) 年6月16日から18日までの3日間である。耕作中の畑をさけて1m×3.5mのトレンチを1ヶ所設定した。トレンチ位置は図2のとおりである。人力により現地地表下1.5mまで掘り下げた。層位は図3のとおりである。1992年度の調査では、旧耕作土(④層)の直下で縄文時代の遺物包含層と遺構が確認されているが、今回の調査では確認できなかった。旧耕作土下に堆積する⑤層は、鉄分の沈着が多く見られるものの、基本的には旧耕作土と同一層である。その下にはすぐ⑥層(地山)が確認される。遺物は、造成時の盛土である②・③層から縄文土器、土師器、須恵器、珠洲、磁器などが入り混じって数点出土した。④層からは土

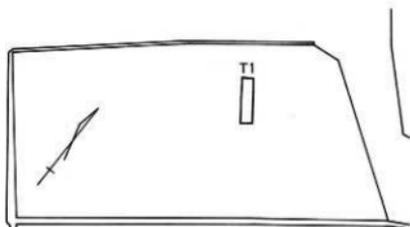


図2 調査区設定図 (1:400)

師質土器片1点が出土した。⑥層上面から縄文土器片、石錐1点が出土した。

これらの結果から、尾根上では、遺跡は削平されていると考えられる。

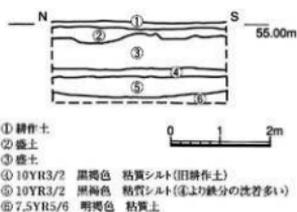


図3 T1断面図



出土遺物 石錐 (1:2)

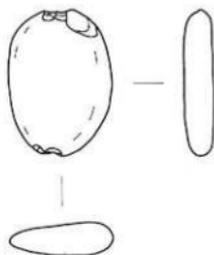


図4 遺物実測図 石錐 (1:3)



調査前 (北から)



調査状況 (北から)



調査状況 (T1南から)



調査状況 (T1東壁)

## 松永遺跡 (1)



図5 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

松永遺跡は、小矢部市西部の丘陵山麓から段丘上に広がり、標高約45～50mをはかる。奈良時代と中世を中心とする遺跡として知られ、分布調査では墨書土器や円面硯が採集されていることから、官衙的性格を持つ可能性も考えられる。これまでの個人住宅、農道改良に伴う周辺の調査でも奈良時代の遺構や瓦、磚伝のほか中世の遺物が出土している。

今回の調査は、農業関連施設の建設に伴うものである。遺跡範囲のほぼ中央に位置し、標高51～52mの段丘上に立地する。分布調査では遺物の分布密度の高い地域である。

現地調査期間は2003 (H15) 年9月10日から12日までの3日間である。1.5m×16mのトレンチを南北に1本、1.5m×8mのトレンチを東西に1本設定した。トレンチ位置は図6のとおりである。人力により現地地表下0.8m～1.2mまで掘削した。層位は図7のとおりである。遺物はT1では②層から土師器、須恵器、

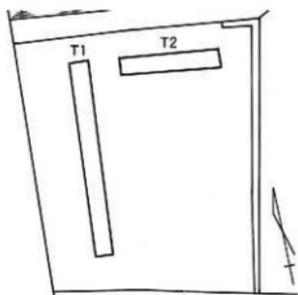


図6 調査区設定図 (1:400)

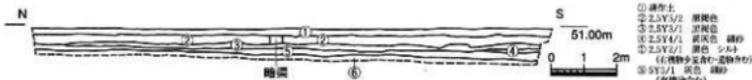


図7 T1断面図

- ① 遺構土
- ② 2.5V3/2 黒褐色
- ③ 2.5V3/1 灰褐色
- ④ 2.5V4/A 黒灰色 漆跡
- ⑤ 2.5V2/1 褐色 シルト
- (右側砂土層中 遺物あり)
- ⑥ 3V3/1 灰色 砂
- (右側砂土)

土師質土器のほか近世以降の遺物が入り混じって出土し、圃場整備などによる後世の擾乱を受けている。③層は遺物の出土はなく、トレンチ北端では確認できない。③層と⑤層の間に部分的に薄く④層黄灰色の砂層が堆積する。⑤層は少量の有機物を含んでいる。土師器が1点出土した。⑥層はアシ、ワラ状の有機物や炭化物を多く含んでいる。土師器、須恵器が1点づつ出土した。T2では、②層から土師質土器、⑤層から須恵器が出土した。⑤、⑥層から出土した土師器、須恵器はいずれも小片で時期の確定には至らなかった。



調査状況 (T1南から)



調査状況 (T2西から)



調査状況 (T1南から)



調査状況 (T2西から)

## 上品野遺跡



図8 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

上品野遺跡は1978 (S53) 年度、圃場整備に先立つ事前調査によって発見され、奈良時代から中世の遺跡として知られている。西部丘陵の山麓から低位段丘上に立地する。1997 (H9) 年度と1999年度に試掘調査が実施され、97年度の店舗建設に伴う調査では古代の自然流路と土師器が確認されており、99年度の個人住宅の建設に伴う調査では古代から近世にいたるまでの遺物が確認されている。

今回の調査区は遺跡範囲の中央西端に位置する。97年度の調査区の南に隣接し、駐車場の増設に伴うものである。

現地調査は2003 (H15) 年9月11日から26までの9日間である。調査区を南北に縦断する1m×48mのトレンチを1本、東西方向に1m×8mのトレンチを3本と、3m×8mのトレンチを1本設定した。トレンチ位置は図9のとおりである。人力により現地表下約1mまで、一部下層確認のため1.8mまで掘削した。層位は図10のとおりである。遺構は確認できなかった。T2、T3で溝

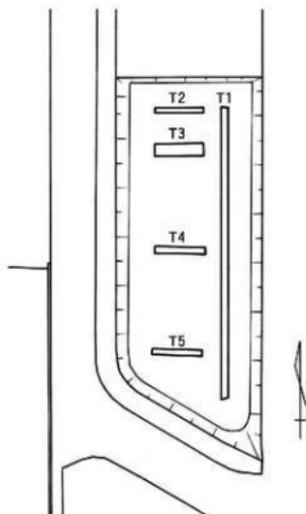


図9 調査区設定図 (1:800)

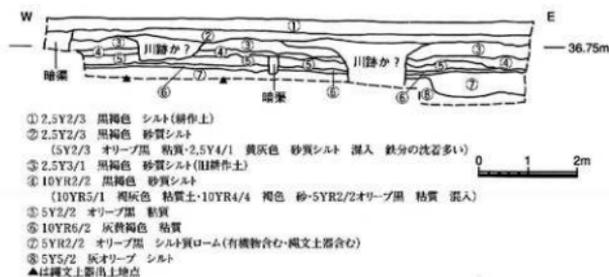


図10 T3断面図

状の落ち込みを確認したが、かなり新しい水路あるいは川跡である。

遺物はT1、T2、T3の①～④層で近世陶器、古銭(寛永通宝)、珠洲、須恵器、土師器が入り混じって出土している。T4、T5では遺物の出土はなく、T1の遺物出土地点も中央から北よりに限られる。T3の⑦層で縄文土器が2点出土した。うち1点は内湾気味に立ち上がる口縁部である(写真)。気屋式土器の深鉢の口縁部であろう。



調査状況(南西から)



出土遺物 縄文土器 (1:2)



調査状況(T1南から)



調査状況(T3東から)

## 田 川 遺 跡



図11 調査位置図  
(1 : 5,000)

### 調査の概要

田川遺跡は子撫川と小矢部川が合流する段丘上に位置する。分布調査により遺物の散布が確認され、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録された。しかし、これまでの試掘調査では、遺物の出土のみで、遺構は確認されておらず、その詳細は不明である。

**I地区** 調査区は遺跡範囲の中央北よりにあたる。2002（H14）年度に調査した田川谷内川の河川改修に伴う住宅移転先の拡張が原因である。面積165㎡と狭小であるが、昨年の調査で古墳時代の高坏が出土した地点に近い調査対象とした。

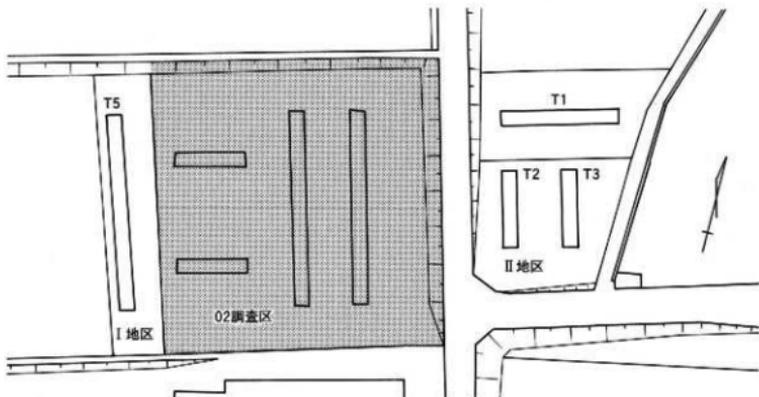


図12 調査区設定図 (1 : 500)



図13 T5断面図  
(I地区)

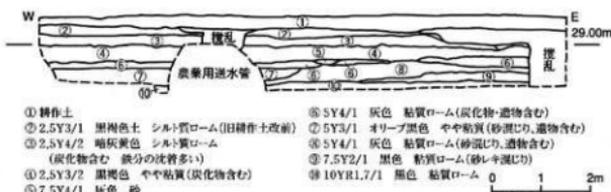


図14 T1断面図  
(II地区)

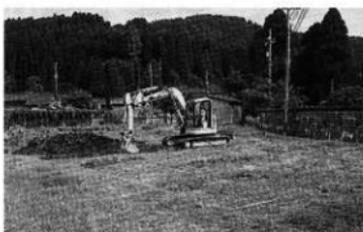
現地調査は2003 (H15) 年9月29日から10月7日までの4日間である。調査対象区内に1.5m×20mのトレンチを1本設定し、掘削機により表土を除去した後、人力により現地表下1.5mまで掘削した。層位は図13のとおりである。遺構は確認できなかった。遺物は①・②・③層からは土師器、珠洲のほか異なる時期の遺物が入り混じって出土した。④層以下は砂、礫、粘質土が互層に堆積し、砂、礫の中にかなり磨耗した土師器片が混入していた。

調査区は2002年度調査区とは幅3mの道路をはさんで西側に位置する。調査の原因は同じく田川谷内川の河川改修に伴う住宅移転である。遺跡範囲の北西部分にあたる。

**II地区** 現地調査期間は2003年10月3日から8日までの4日間である。1.5m×12mのトレンチを1本、1.5m×8mのトレンチを2本設定した。トレンチ位置は図12のとおりである。耕作土及び盛土を重機により除去した後、人力により現地表下1.5mまで掘削した。層位は図14のとおりである。遺構は確認できなかった。遺物は⑥～⑧層で土師器が数点出土したが、いずれも磨耗が激しく図示できたものは2固体のみである (図15・写真)。2は3点とも同一固体である。



調査状況 (I地区東から)



調査状況 (II地区南から)

まとめ 今回の調査でも遺物の出土のみで遺構は確認できなかった。田川遺跡の所在地一帯は、現在圃場整備により標高30～25mで稲葉山山麓から子撫川に向かって階段状に低くなる水田に整えられており、遺跡が削平されている可能性も考えられる。調査中に周辺の水田で耕作中に採集したという遺物を見せていただく機会があった。古墳時代の土師器、須恵器、珠洲など時期的にかなり幅のある遺跡のようである。

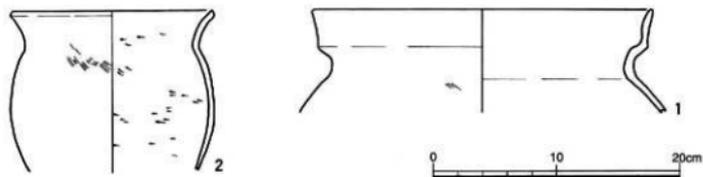
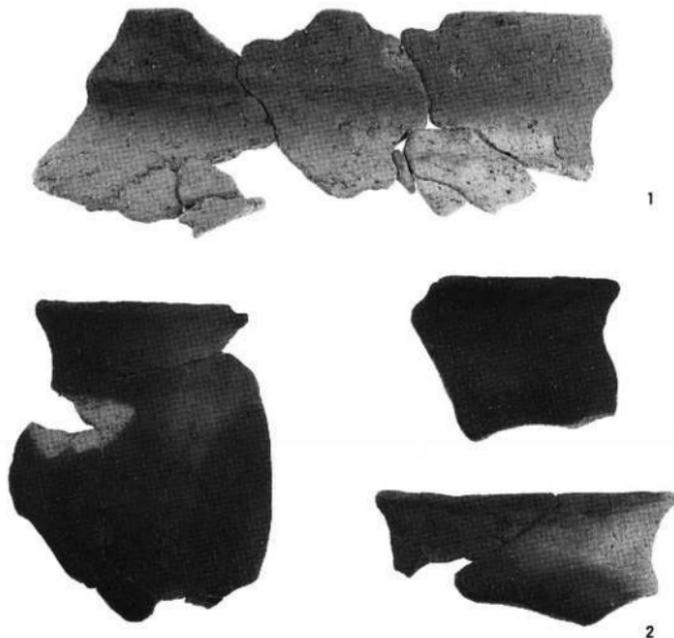


図15 遺物実測図 土師器 (1:4)



出土遺物 土師器 (1:2)

## 埴生条里遺跡



図16 調査位置図  
(1 : 5,000)

### 調査の概要

埴生条里遺跡は、小矢部市街南西の埴生地区を中心に広がる。今回の調査は資材倉庫等の建設に伴うもので、調査区は遺跡範囲の中央西よりに位置する。

現地調査は2003（H15）年10月8から10日までの3日間である。トレンチ位置は図17のとおりである。T1においてかつての毘沙門川の右岸と思われる痕跡を確認した。岸に沿って3本の本杭がある。またT1・T2の両トレンチ断面で地震による断層がみられた。埴生地区での地震による断層は、本調査区から約250m西に位置する若宮古墳の墳丘でも確認されている。遺物は①～⑤層で縄文土器、土師器、須恵器などが入り混じって出土したが、後世の擾乱を受けているか、2次的な埋没によるものである。

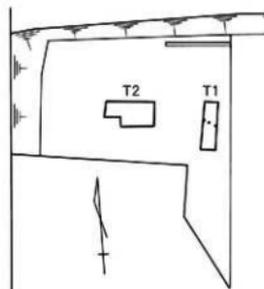


図17 調査区設定図 (1 : 400)



調査状況（東から）

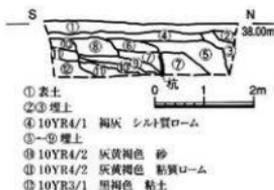


図18 T1断面図

## 棚田遺跡



図19 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

棚田遺跡は淡江川と五郎丸川にはさまれた標高約40m前後をはかる段丘上に立地する。古墳時代から中世の遺物が出土しているが、中心となるのは奈良時代である。調査は個人住宅の建設に伴うもので、遺跡範囲の北東に位置する。

現地調査は2003 (H15) 年10月9日から16日までの3日間である。1.2m×2mのテストピットを対象区全体に7ヶ所設定した。人力により現地表下1m～1.2mまで掘削した。層位は①耕作土、②オリーブ黒色砂質ローム、③オリーブ黒色シルト、④黒褐色シルト、⑤黒色シルト、⑥オリーブ黒色シルト質ロームである。遺物は②層から珠洲、③層から土師器が出土した。⑤層以下は有機物を含み、湿地状を呈している。遺構は確認できなかった。

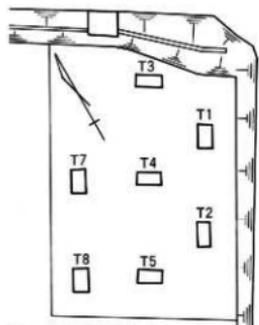


図20 調査区設定図 (1:400)



調査状況 (北から)

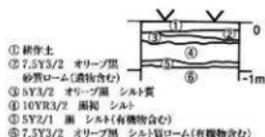


図21 T8 断面概略図

- ① 耕作土
- ② 7.5Y3/2 オリーブ黒砂質ローム(遺物含む)
- ③ 5Y2/2 オリーブ黒シルト質
- ④ 10YR3/2 黒褐シルト
- ⑤ 5Y2/1 黒シルト(有機物含む)
- ⑥ 7.5Y3/2 オリーブ黒シルト質ローム(有機物含む)

## 安養寺遺跡



図22 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

安養寺遺跡は旧石器時代の遺跡として知られているが、圃場整備によってそのほとんどが破壊されたとされている。今回の調査は国道359号の拡幅に伴う神社移転によるもので、遺跡範囲の北西端に調査区の一部がかかる。

現地調査は2003（H15）年11月5日から14日までの7日間である。調査の結果、圃場整備により⑤層（地山）の上部まで削られ、①～④層はその後の堆積と考えられる。T8で穴を3ヶ確認したが性格及び時期は不明である。遺物の出土はなかった。



調査状況（南から）

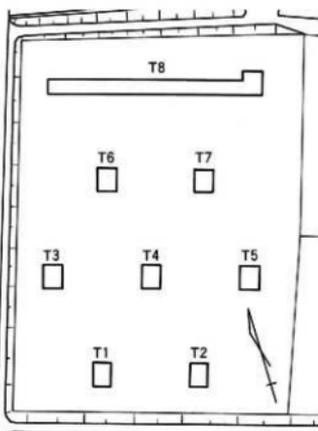


図23 調査区設定図 (1:400)



図24  
T8断面概略図

## 松永遺跡 (2)



図25 調査位置図  
(1:5,000)

### 調査の概要

松永遺跡は奈良時代及び中世を中心とした遺跡として知られ、奈良時代の遺物からは地方官衙、中世においては松尾社領「松永庄」の存在が推測されている。今回の調査は個人住宅建設に伴うもので、遺跡範囲の北端に位置する。

現地調査は2003 (H15) 年12月5日から11日までの3日間である。対象区全体に1m×1.5mのテストピットを12ヶ所設定し、人力により現地表下70cmまで掘削した。層位は図27のとおりである。①層耕作土以下は、調査区の西と東ではやや異なる。旧地形が東に向かって低くなっていたことがうかがえる。②層および⑥層は後世の擾乱を受けており、圃場整備によるものであろう。遺構、遺物ともに確認できなかった。

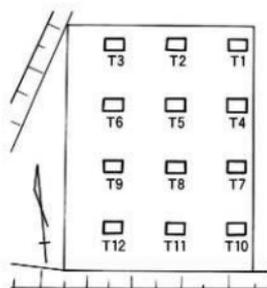


図26 調査区設定図 (1:400)



調査状況 (東から)

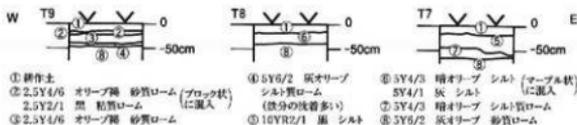


図27 T7・8・9  
断面概略図

# 報告書抄録

ふりがな	な	へいせいじゅうごねんどおやべしまいぞうぶんかざいはつつつちようさがいほう						
書名	平成15年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概観							
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第54冊							
編著者名	高木場 方里							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766-67-1766							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
三ツ池のいせ 壇生上野遺跡	小矢部市壇生 上野4243-18 ほか	16209	052	36°39'37"	136°51'13"	2003.06.16～ 2003.06.18	379㎡	個人住宅 等建設
松永遺跡(1)	小矢部市松永 2038-2	16209	059	36°38'56"	136°50'52"	2003.09.10～ 2003.09.12	385㎡	農業施設 等建設
上原野遺跡	小矢部市道沼 568-1	16209	056	36°39'25"	136°51'17"	2003.09.11～ 2003.09.26	1,105㎡	駐車場 造成
田川遺跡 (I地区)	小矢部市田川 7132-3	16209	013	36°41'32"	136°53'15"	2003.09.29～ 2003.10.07	165㎡	河川改修 に伴う住 宅移転
田川遺跡 (II地区)	小矢部市田川 7089	16209	013	36°41'32"	136°53'16"	2003.10.03～ 2003.10.08	356㎡	河川改修 に伴う住 宅移転
壇生条里遺跡	小矢部市壇生 280-3ほか	16209	185	36°39'37"	136°51'27"	2003.10.08～ 2003.10.10	202㎡	資材倉庫 等建設
棚田遺跡	小矢部市棚田 2247	16209	085	36°38'06"	136°50'47"	2003.10.09～ 2003.10.16	300㎡	個人住宅 等建設
安養寺遺跡	小矢部市 安養寺1795	16209	141	36°37'45"	136°52'25"	2003.11.05～ 2003.11.14	691㎡	道路改良 に伴う神 社移転
松永遺跡(2)	小矢部市石坂 113-2	16209	059	36°39'15"	136°51'07"	2003.12.05～ 2003.12.11	299㎡	個人住宅 等建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
壇生上野遺跡	散布地	縄文・奈良・中世	遺構確認されず。	縄文土器・石鏃・土師器・須恵器・土師質土器				
松永遺跡(1)	散布地	古墳・奈良・中世	遺構確認されず。	土師器・須恵器・土師質土器				
上原野遺跡	散布地	縄文・奈良・中世	遺構確認されず。	縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・古銭				
田川遺跡(I地区)	散布地	古墳・中世	遺構確認されず。	土師器・珠洲				
田川遺跡(II地区)	散布地	古墳	遺構確認されず。	土師器				
壇生条里遺跡	散布地	縄文・古代	遺構確認されず。	縄文土器・土師器・須恵器				
棚田遺跡	崖落	古墳・中世	遺構確認されず。	土師器・須恵器・珠洲				
安養寺遺跡	散布地		穴3ヶ	遺物出土せず。				
松永遺跡(2)	散布地			遺構確認されず。遺物出土せず。				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第54冊

平成15年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 2004年3月31日  
編集・発行 小矢部市教育委員会  
〒932-8611 小矢部市本町1番1号  
TEL 0766-67-1760  
印刷 株式会社 アヤト